

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	スポーツひろばブレイス高田馬場教室				公表日	2025年 3月 15日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		法令を遵守しています。特に運動場面では現状を固定化することなくより良いレイアウトを検討し最適なスペース確保に努めています。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		法令で定められた配置数に加えて、常勤換算で児童指導員等を1名以上配置しています。専門性の高い職員の配置に努めています。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		出入り口に階段がありますが、合理的配慮として玄関やホームページに介助可能の掲示を行っています。事業所内はバリアフリーです。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動前、活動後に清掃を行い清潔な空間を保てるよう運営しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別の空間になるようカーテンなどを配置し移動ができるような空間があります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		打ち合わせ、フィードバックは常に行い全員が発言を行っています。目標として早い段階での授業プランの共有を行っています。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		年1回のアンケートを実施し、職員全員で改善のための話し合いを行っています。現状や課題点を把握し、業務改善につなげています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		事前の打ち合わせにて、前回の振り返りを交えながら準備を行っています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者評価は現在実施しておりません。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		月に1度各教室の職員が集まり授業の練習を行う機会を設けています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		面談を行い、面談内容とあわせて発達検査の結果や就学支援シートなどを参考にして客観的に支援計画を作成しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		定期的な聞き取り調査や面談を通して保護者の方利用者の意見を取り入れ作成しています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		休日や長期休暇などで利用時間が変わる際には、参加状況に応じた目標達成ができるよう支援しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		児童の状況に応じて組み立てています。児童の状況に合わせて個別や少人数のグループで活動を行ったりもしています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		毎日必ず支援開始前に職員全員で事前に打ち合わせを行い、児童や支援内容の情報を共有などを行っています。また支援終了後にも、結果を共有し改善のための振り返り	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		放課後等デイサービスガイドラインを参照し支援内容の検討を行い、適切に設定されるよう取り組んでいます。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		より良い療育となるようプログラムの立案はチームで行っています。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動プログラムが固定化しないようチームでの確認や立案を通して工夫しています。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		柔軟に組み合わせ、支援を行うよう努めています。なぞり絵や音読などの活動で、季節に応じた題材を多く用いることで、季節を感じられるように工夫するなどしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日必ず支援開始前に職員全員で事前に打ち合わせを行い、児童や支援内容の情報を共有などを行っています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		事実を客観的に捉えられるように、プログラムの達成状況や活動場面の具体的な様子を記録しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		半年に1回以上ケース会議を行い、計画の見直しや現状・課題の把握をしています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		状況やニーズに応じて、情報を共有・提供します。日頃から就学前・学校卒業後の関係機関と関わる機会を大切に、積極的に情報交換などができるように努めています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		幼児の状況に精通した職員が必ず参画しています。また、事業所内でも会議を行い情報共有をしています。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		研修会などに参加しています。今後も積極的に参加し連携を図ります。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要・依頼に応じて、情報を共有・提供し連携を行います。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		研修会などに参加しています。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○			今のところ交流の機会はありませんが、利用幼児や保護者、地域からの要望などに応じて検討していきます。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		障所の際にフィードバックを行い、その日、学校、お家での様子についてお話する時間を作っています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			必要に応じて、個別に支援を行っています。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		随時面談などを受け付けています。その中ご利用者の意向や家族の意向をお聞きする機会を設けています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもや保護者の意思を尊重し、最善の利益を優先するために、日々の活動の中でこどもや家族の意見や希望を直接聞き、計画に反映できるようにしています。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		災害発生時の設定を毎回変更して訓練を行っています。全職員が非常時に対応できるよう訓練の役割が固定化しないようにしています。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		行っています。新しい職員が配属された時などにも適切に実施していきます。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		今のところ具体的な話は出ていないが、要望があれば行っていく。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	LINEやメール、電話などを通して迅速に対応ができ状態となっております。	個別支援計画など調査の際にもお声掛けを行い、周知を行っていく。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○	普段から十分に注意を払い取り扱っています。また、定期的に職員間で確認をして意識を高めています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	普段から十分に注意を払い取り扱っています。また、定期的に職員間で確認をして意識を高めています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	説明の速度に気をつけたり、口頭だけでなく視覚的に示したりと、常に配慮しています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		保護者の要望等に配慮し、現在招待等は行っていません。要望があった際には実施をしていきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○	災害発生時の設定を毎回変更して訓練を行っています。全職員が非常時に対応できるよう訓練の役割が固定化しないようにしています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○	事前に保護者の方との連携を行い非常時の対応を確認しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	一人ひとりのアレルギーの有無を把握し、該当児童に関しては、保護者と連携して対応しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○	行っています。新しい職員が配属された時などにも適切に実施していきます。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	該当児童に関して必ず記載しています。あわせて、適宜内容を見直し、必要に応じて記載しています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○	ヒヤリハット事例集を作成しています。職員間で事例を共有し、意識の向上を図っています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○	職員間で虐待防止に向けた取り組みとして研修資料の読み合わせなどを行っています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○	身体拘束を行うかについて保護者に十分に説明を行い了承を得たうえで個別支援計画に記載しています。		
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	初回面談時に説明し、必要に応じて面談を行い個別支援計画等にも記載しています。		